

日々の備えが守る大切ないのち

毎年のように発生する災害。台風や大雨、地震など種類は多岐にわたり、災害の発生そのものは避けられません。しかし、どんな災害でもその後の被害を少しでも抑えるために共通するのは、日頃の備えです。

今回は避難所と避難場所の違いや防災に関する市の制度・取り組みなどをご紹介します。今、皆さんがとっている災害対策を一度見直してみませんか。 (危機管理課)

範囲・被害想定ともに拡大

浸水想定が見直されました

国・府はそれぞれが管理している河川について、浸水想定に使用する降雨量の基準を、従来の「200年に一度の降雨量」から「想定しうる最大規模の降雨量（おおむね1,000年に一度以上の確率規模の降雨）」に変更し、想定を見直しました。浸水した場合に想定される水深が、「0.5メートル未満」「0.5メートル以上3メートル未満」「3メートル以上5メートル未満」「5メートル以上10メートル未満」の4段階で分けられています。

その結果、市内の浸水想定範囲、被害想定は共に拡大しています。一部の河川を除き、新しい浸水想定区域は市ホームページで確認できます。市は国・府において河川ごとに公開されている洪水浸水想定区域図を基に、豊中市浸水ハザードマップを令和2年度(2020)中に更新する予定です。



浸水想定の見直しについてはこちらからご覧になれます

浸水想定の見直し Q & A

Q 見直すことになったのはなぜ？

A 近年、これまでの想定を超える浸水被害が多発しているため、平成27年(2015)5月、水害の被害軽減のため定められた水防法が「河川の氾濫による浸水想定区域は想定しうる最大規模の降雨によって指定する」という内容に改正されたためです。

Q 見直された内容はどこで見られるの？

A 市に影響のある河川のうち、猪名川、淀川、神崎川、天竺川、兔川、高川、旧猪名川はすでに府ホームページで公表されており、千里川、箕面川は令和2年夏頃までに公表予定です。自宅や職場だけでなく、避難経路なども併せてご確認ください。

Q 0.5メートル浸水するとどうなるの？

A 一般的には「床下浸水」といわれる状態で、大人の膝までが水に浸かり、歩くことが困難になります。自動車はエンジンや電気系統が停止してしまう恐れがあるため、速やかに車内から脱出しなければなりません。

風水害への備え ~そのときが来る前に~

台風や大雨は、天気予報などで事前にある程度の情報を得ることができます。
梅雨から台風シーズンまでの本格的な出水期が始まるまでに、今できる対策があります。

家の外回りを確認!

屋根

- 不安定なテレビアンテナを補強
- ひびやずれ、割れている瓦やタ
ンなどを修理

ベランダ

- 植木鉢や物干しざおなど落下・
飛散する可能性があるものを固
定するか、退避させるスペースを
屋内などに確保

窓

- 不具合のある雨戸や窓枠、カー
テン(*)を修理
- ※カーテンを閉めることで、万が一飛来物な
どで窓ガラスが破損した場合でも、室内へ
の被害を抑えることができます

情報取得手段を確認!

◆ NHK データ放送

確認できる情報は
右のとおりです

- 警報・注意報の発表状況
- 台風関連情報
- 河川水位・雨量
- 避難情報の発令状況
- 開設している避難所
- 市町村からのお知らせ

利用方法の手順

- ① テレビ番組「NHK総合 (1ch)」を選択
- ② リモコンの「d」ボタンを押す
※メーカーによって名称・位置
などは異なります
- ③ 「防災・生活情報」を選
択してリモコンの「決
定」ボタンを押す
- ④ 表示させたい情報を選
択してリモコンの「決
定」ボタンを押す

◆ その他

- おおさか防災ネット
- Yahoo!防災速報アプリ
- FM千里(83.7MHz)
- 市ホームページ
- 防災スピーカー・サイレン
- J:COM
(豊中・池田ケーブルネット)
- 市公式SNS (フェイスブック・ツイッター・ライン)

ご存じですか? 6月は「土砂災害防止月間」です

台風や大雨の時には、暴風や浸水被害のほかに、土砂災害にも警戒が必要です。事前に土砂災害警戒区域・特別警戒区域を確認しておき、気象情報に注意して早めの避難を心掛けましょう。

つづきは32ページへ。避難所と避難場所の違いや市の取り組みを紹介